



兵庫県猪名川町

目 次

	ページ
はじめに(計画の策定趣旨).....	1
1 . 猪名川町の概要.....	2
(1) 地理的位置.....	2
(2) 歴史的背景.....	2
(3) 地域資源.....	2
自然・景観資源 文化・歴史資源 その他地域の資源	
(4) 自然・社会・経済条件.....	5
自然条件 社会条件 経済条件	
(5) 観光.....	7
(6) 歴史文化を活かした地域づくり.....	7
2 . 歴史文化を活かしたまちづくりのビジョン.....	9
2-1 上位計画におけるまちづくりビジョン.....	9
(1) 第四次猪名川町総合計画 (2) 猪名川町都市計画マスタープラン	
2-2 歴史街道計画まちづくりビジョン.....	11
(1) まちづくりの課題 (2) まちづくりビジョン	
3 . 歴史街道計画整備プラン.....	12
3-1 基本構想.....	12
(1) 基本的な考え方.....	12
歴史文化を活かした「住み続けたい・何度も訪れてみたい」地域づくりを進める	
観光客流入による交流人口の増大を地域の振興につなげる	
豊富な自然環境の保全と清流猪名川を取り戻す	
(2) 基本指針.....	13
地域の資源を活かした観光ゾーンの形成	
観光ゾーンへのアクセスの整備・充実	
観光案内情報の整備・充実	
観光産業関連の振興	
(3) 地区設定・重点整備地区設定.....	14
(4) 施設整備計画(全体、重点整備地区等).....	16
(5) 民有空間の整備等に関する施策.....	18
(6) 地域の住民活動等の活動.....	19
(7) ソフト事業への支援施策.....	19
(8) その他歴史街道計画整備に必要な施策.....	19
3-2 計画の具体化に向けて.....	19
4 . 資料編.....	21 ~

はじめに ～ 計画の策定趣旨 ～

本町は、摂津国川辺郡に属していたことから源氏発祥の地である多田盆地に近く、豊臣政権の台所を支えた多田銀銅山の所在地として知られ、歴史ロマンに彩られたまちです。奈良大仏鑄造には銀を献じたという伝承もあるこの鉱山は、昭和48年に閉山するまで、埋蔵金伝承など様々な伝説を歴史の中にとどめてきています。



また、江戸時代後期には、全国を行脚しながら逗留した地で仏像を奉納した木喰明満上人が、90歳の時本町を訪問し約3ヵ月の滞在期間中に数多くの木喰仏を造像された地でもあります。

本町は、平成12年度からスタートした第四次猪名川町総合計画に基づいて、「誰もがいつまでも住み続けたい、何度も訪れてみたい」と思える魅力的なまちづくりを推進しているところであります。特に、観光分野等を中心として、さらに具体的な取り組みへと発展させ、また、本町が育んできた歴史・文化を紹介するために、平成15年度の国土交通省歴史街道モデル地区の認定を受けました。

本町の歴史・文化を活かして、来訪者の方々により楽しく歴史文化に接していただくとともに、地域住民の方々にも歴史的地域に住んでいるという実感をもっていただけるように、誰にでも親しめる地域づくりを進めるための総合的な整備プランである「猪名川町歴史街道計画整備プラン」を策定いたしました。

この計画が、住民・事業者・行政の協働した取り組みにより、より実効性のある計画となるよう、今後とも住民の皆様をはじめ、関係各位の温かいご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

最後に、この計画の策定にあたり、多大なご尽力を賜りました歴史街道計画整備プラン策定協議会委員の方々をはじめ、貴重なご意見・ご提言をお寄せいただきました皆様に対し、心からお礼申し上げます。

平成16年2月

猪名川町長

真田保男

1. 猪名川町の概要

(1) 地理的位置

本町は、北を篠山市、東を大阪府能勢町、西を三田市、南東を川西市、南西を宝塚市に接し、兵庫県の南東部に位置し大阪府と接しています。総面積は90.41km²で、東西約8km、南北約18kmと細長く、大阪まで直線距離で約25km、神戸まで約30kmで、能勢電鉄「日生中央駅」から鉄道で大阪方面へは約40分、神戸方面へは約1時間半の時間距離となっています。



(2) 歴史的背景

古代から農耕・狩猟などが営まれ、高僧行基が楊津院を建立以来歴史的にその名をとどめることとなりました。近世に入り、幕府の直領となり銀山を中心に繁栄しました。

明治4年(1871年)の廃藩置県により、この地域一帯は兵庫県となり、明治21年(1888年)の市町村制の公布に伴い、明治22年(1889年)に中谷村、六瀬村が創設され、その後、昭和30年(1955年)4月10日、両村の合併により猪名川町が誕生し、現在に至っています。

(3) 地域資源

自然・景観資源

名 称	概 要
銀山 (多田銀銅山跡)	銀山の歴史は長く、古くは奈良・平安時代の昔にさかのぼります。 奈良東大寺の大仏建立の際、使用した銅もここから産出していたといわれ、豊臣秀吉の埋蔵金伝説も伝えられています。
彫刻の道	本町の交通の玄関口である能勢電鉄「日生中央駅」から銀山地区までの約8kmにわたり、路傍の石として一体一体が異なる表情を持ち、地区を訪れる人に憩いとやすらぎを与えます。
近畿自然歩道	・猪名川溪谷屏風岩を訪ねるみちルート 日生中央駅～屏風岩 L = 8.6km ・埋蔵金ロマン多田銀山へのみちルート 屏風岩～南田原～宝塚市 L = 10.3km
屏風岩	高さ30m幅100mにおよぶ奇岩。 猪名川に屏風のようにそそり立つ景色は、春夏秋冬それぞれの季節に風情が見られます。
大野アルプスランド	標高753m、遠く大阪方面まで見渡せるパノラマ。 山頂には、50cm反射望遠鏡を設置している天文台があります。

文化・歴史資源

名 称	概 要
国指定重要文化財戸隠神社本殿	文永4年(1524年)に造営された極彩色が美しい本殿は、昭和63年に修復され国の重要文化財に指定されました。
旧川辺郡中谷村・六瀬村所在木喰明満作木彫群（木喰仏）	五穀や肉を絶ち、火食せず、木の実や山菜、そば粉などを常食とする真言宗の戒律のひとつで、この修行を成し遂げた木喰明満上人は、全国を廻国しながら各地で1,000 軀以上の仏像を奉納しましたが、本町を訪れた時はすでに90歳で3ヵ月の滞在の間に3日に1軀というペースで造像しました。本町に残る木喰仏は、滞在していた寺や民家で保存されています。 (東光寺・毘沙門堂)
静思館	江戸時代の豪農の家を模して昭和初期に建造された茅葺き日本家屋で文化施設として活用しています。
道の駅いながわ	平成12年にオープンした「道の駅いながわ」は、町内産の新鮮野菜や特産品を販売する農産物販売センターや地域農業情報センター、町内産のそばを食材にした食事処そばの館があり、そば打ち体験もできるそば道場も併設しています。
ふるさと館	昭和の中ごろまで使用されていた生活用具の展示や銀山の絵図や鉱石、また本町に関わりある文化財資料を展示しています。

その他地域の資源

【まつり・行事】

時 期	名 称
1月初旬	三矢の儀式
2月11日	彫刻の道マラソン大会
7月中旬	あじさいまつり
10月中旬	秋まつり・杉生西畑地区練り込み
11月3日	いながわまつり

【指定文化財一覧】

	種 別	名 称		指定年月日	所 在 地
国指定	建造物	戸隠神社本殿		S54.5.21	肝 川
県指定	〃	石造燈籠		S44.3.25	木 津
〃	〃	朽原 八幡神社本殿		S46.4.1	朽 原
〃	〃	杉生 八坂神社本殿		S46.4.1	杉 生
〃	天然記念物	ネズ（ムロ）の大木		S63.3.22	清 水
〃	〃	モッコクの大木		〃	〃
〃	彫 刻	木喰仏	14 躯	H11.4.13	北 田 原
〃	〃	〃	7 躯	〃	上阿古谷
〃	〃	〃	3 躯	〃	万 善
〃	〃	〃	1 躯	〃	万 善
〃	〃	〃	1 躯	〃	紫 合
町指定	〃	薬師如来仏		S48.3.5	北 田 原
〃	〃	聖観世音菩薩像		〃	〃
〃	〃	地藏菩薩像		〃	〃
〃	書 跡	木喰上人真筆(5 点)		〃	槻 並
〃	彫 刻	薬師如来仏像		〃	清 水
〃	〃	観世音菩薩像		〃	原
〃	名勝地	庭園		S48.8.11	槻 並
〃	建造物	宝篋印塔		S48.11.14	北 田 原
〃	考古資料	銀山行政絵図面		〃	銀 山
〃	〃	奉行高札(2 枚)		〃	〃
〃	天然記念物	ヒダリマキガヤ	2 本	S63.2.5	柏 原
〃	〃	〃	14 本	〃	〃
〃	〃	〃	2 本	〃	〃
〃	民族文化財	杉生西畑の練り込み		H2.1.20	杉 生
〃	天然記念物	ムクノキ(1 本)		H3.3.11	清 水
〃	〃	モミ(1 本)		〃	肝 川
〃	民族文化財	柏原の練り込み		H5.1.13	柏 原

(猪名川町教育委員会資料)

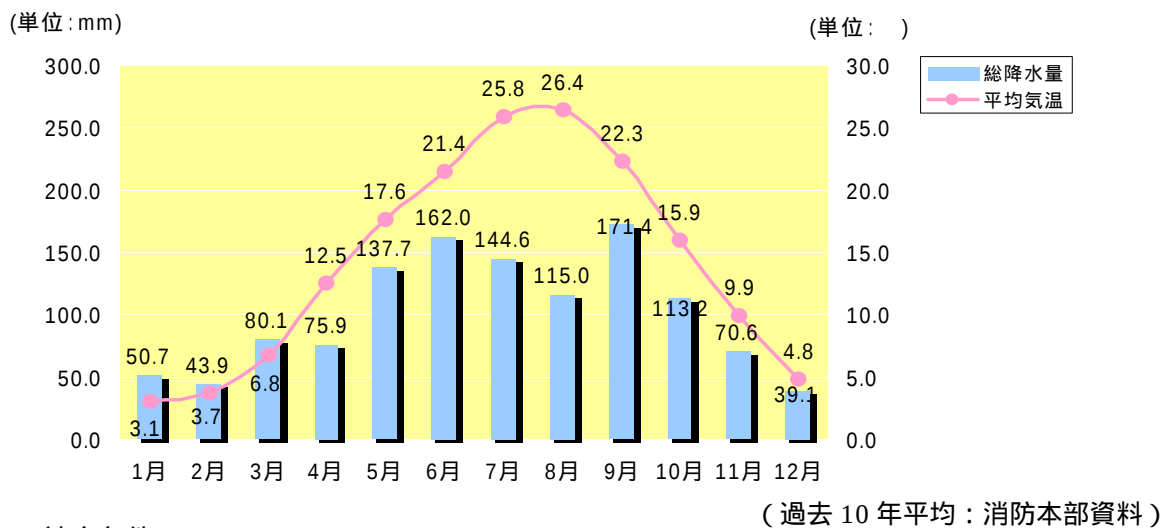
(4)自然・社会・経済条件

自然条件

本町の最北部に位置する大野山（標高753m）に源を発する猪名川が町の中央を南北に流れ、その周辺に帯状の平地が形成されています。そして、これらを抱くように標高400m～700m級の山々が隣接地域との間に連なっており、北より南に行くにしたがい漸次低くなっています。

過去10カ年のうちの最低気温は摂氏マイナス7.1度(平成13年)、最高気温は摂氏39.2度(平成6年)であり、夏季の夜間温度は25度以上を越すことが少なく、過ごしやすくなっています。

瀬戸内型気候帯に属し、内陸型気候となっており、過去10カ年の年降水量(平均)は1,203.9mmで、6月、9月などは多く、2月、12月などは少なくなっています。



社会条件

戦後高度成長期以降、京阪神地域の住宅地として、昭和45年(1970年)より町南部丘陵地を中心として、大規模なニュータウン開発が進み、昭和53年(1978年)には、鉄道が初めて乗り入れることとなり、能勢電鉄が「日生中央駅」に乗り入れしています。

大阪までの乗り換えなしの特急を阪急電鉄が平日早朝の大阪行き、平日夕方の大阪から日生中央駅行きを運行しており、約40分で移動が可能になっています。

また、本町の幹線道路は、阪神地域と丹波地域を結ぶ主要地方道川西篠山線が南北に縦断しており、これと東西を結ぶ複数の県道によって骨格となる道路を形成しています。バス路線では、川西篠山線のバイパス整備や川西市域でのバスの優先レーンの設置により定時性が確保されたことやバスの増便で利用者が多くなっています。

経済条件

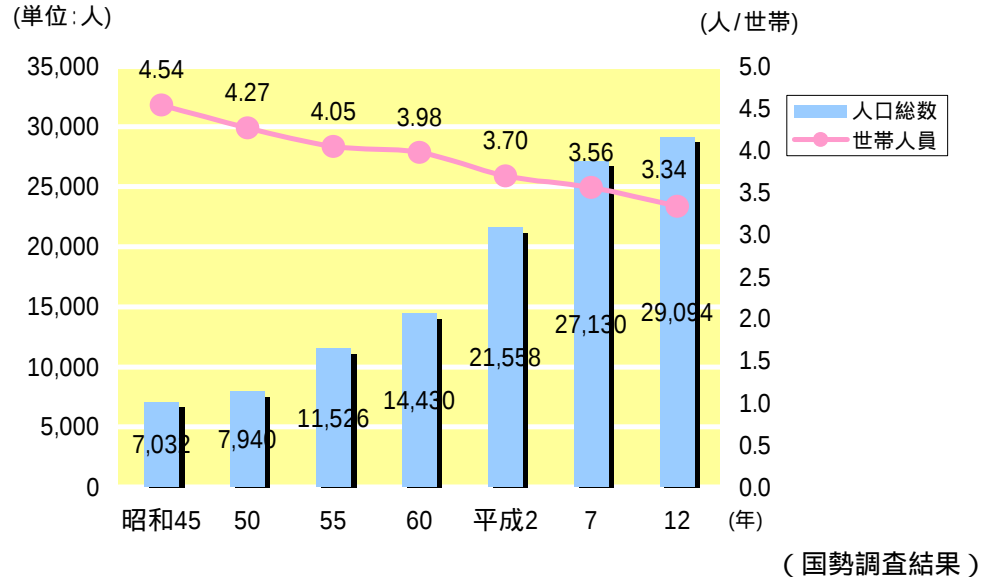
[人口・世帯数]

人口は、昭和30年の合併当時の7,747人から、平成15年3月末にはその約4倍

の 29,558 人となり、大規模ニュータウンの開発による人口の増加とともに都市的土地利用へと変化してきています。

また、世帯数も一貫して増加しているが、核家族化が進行しています。

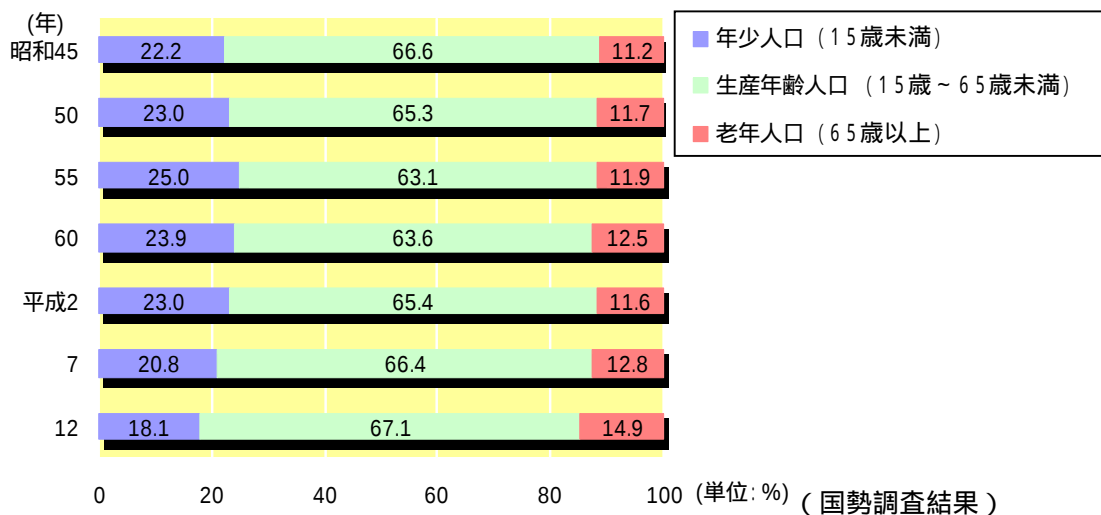
【人口、世帯人員動態】



[年齢階層別人口]

人口推移を階層別にみると、年少人口比率が低下する一方で、老年人口比率が上昇し、少子・高齢化が進んでいる状況です。

【年齢階層別人口構成の推移】

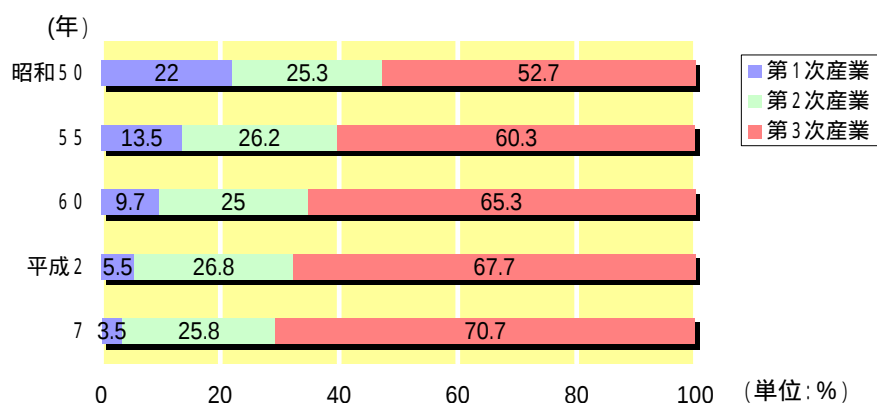


[産業別人口]

本町の産業別人口は、第3次産業が最も多く、次いで第2次産業、第1次産業の順になっています。

産業別人口の経年変化をみると、第1次産業が減少、第2次産業がほぼ横ばい、第3次産業が増加の傾向にあり、近年は、阪神地域各市とほぼ同比率になっています。

【産業別人口の推移】



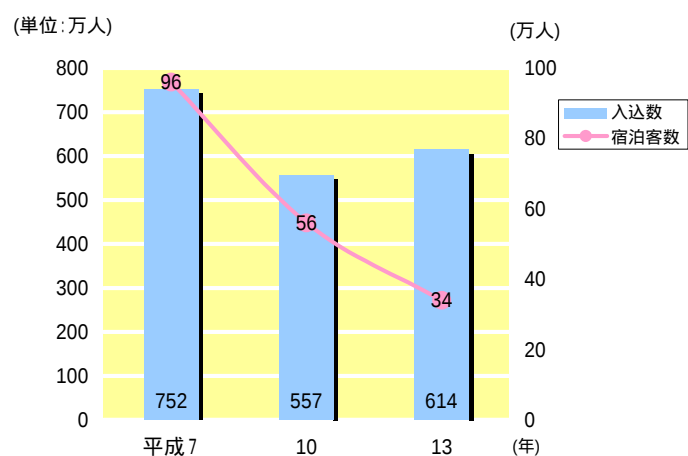
(国勢調査結果)

(5)観光

[観光入込客数]

本町の観光については、都市圏近郊に位置する特性から日帰り客の比率が圧倒的に高くなっています。

【観光客の入込数、宿泊客数の推移】



(兵庫県産業労働部調べ)

(6)歴史文化を活かした地域づくり

名 称	概 要
銀山の宴計画	銀山地区での観光総合開発計画で財源確保が困難であり、計画を留保した。
銀山橋架替事業 (町単独事業)	延長 45.0m、幅員 10.5mで景観に配慮して橋の欄干を白壁・瓦葺にして、落ちついたものになっている。 平成8年度 事業費 13,217 千円

銀山間歩（坑道） 保全整備事業 （町単独事業）	青木間歩（奥行約 80m）及び進入口を整備して、採掘当時の面影を体験できるようにした。年末年始を除く午前 9 時から午後 5 時まで自由に観覧できる。 平成 12 年度 事業費 2,730 千円
銀山案内看板設置事業 （町単独事業）	山陽自然歩道から近畿自然歩道への改称に伴い、個々のコース名が命名されたことから、交通・観光の要所とされる道の駅いながわや銀山地域内 4 箇所に案内看板を新設した。 平成 12 年度 事業費 2,090 千円
銀山史跡発掘事業【代官所跡地】 （国庫補助事業）	豊富な文化的価値のある史跡等が埋蔵され、その宝庫とされる当地内での初めての発掘事業で、現在もその作業が進められている。 平成 15 年 5 月には、「多田銀銅山代官所跡遺跡現地見学会」を開催した。 平成 12 年～16 年度 事業費 12,000 千円



景観に配慮して整備した銀山橋



安全整備を施した青木間歩



文化財発掘調査中の代官所跡

2. 歴史文化を活かしたまちづくりのビジョン

2-1 上位計画におけるまちづくりビジョン

(1) 第四次猪名川町総合計画（平成 11 年度策定）

本町は、平成 11 年度に策定した第四次猪名川町総合計画において、住む人がともに手を携え、先人たちが育んだ生活文化や自然が豊かに息づき、福祉や医療そして都市基盤の整備が着実に整う中において、そこに暮らす人々が心身ともに健やかで温かなふれあいのある誰もがいつまでも住み続けたいと思えるまちの実現にむけて、「人・自然・文化」、「里山・田園・ニュータウン」、「暮らす人・訪れる人」の調和を基本理念として、地域住民、ボランティア団体、民間企業などの多様な主体の参加と連携のもとにまちづくりを進めています。

また、都市近郊の豊かな自然や伝統ある生活文化を活かすとともに、これらが豊かに息づき、そしてやさしくとけあう中において、住民相互のコミュニティの醸成や人と人とのふれあい、そして人と自然とのふれあいが感じられる身近なふるさととして、誰もが心地よい住みやすさを感じ、いつまでも住み続けたいと思える魅力あるまちづくりを進め、明日の将来像を、

「人と自然がやさしくとけあい、 未来に輝くふるさと猪名川」

としています。

そして、私たちのまちに一步足を踏み入れれば、四季折々の豊かな自然や人々の生活文化が、住む人・訪れる人に優しく語りかけるハーモニー（調和）のあるまちづくりをめざしています。

「人と自然・文化」の調和

四季の訪れを身近に感じる周辺の山々や猪名川がもたらす自然の恵み、そして、習俗・歴史遺産などの文化資源とのふれあいは、本町で暮らす人々にとって、日常生活を営む上で、必要不可欠なものであり、自然や伝統文化の大切さや共生する心を育んでくれます。また、本町を訪れる人々にとっては、都市近郊の身近な自然やふるさとの味わいを醸し出す伝統文化とのふれあいの中で、自然や文化に共感し理解を深めることができます。人々が本町固有の自然と文化に出会い、互いにふれあい共生していくまちを創造しています。

「里山・田園とニュータウン」の調和

本町には、「都市に近い里山・田園」と「自然に近いニュータウン」とが形成されており、互いに相乗効果を醸し出しています。つまり、既存集落では、都市に近いために優れた生活環境を有するとともに、ニュータウンでは周辺に豊かな自然があるために優れた居住環境形成の可能性を有しています。また、そこには生まれながら町で

暮らしてきた住民と近年新たに移り住んできた人が暮らしています。里山・田園とニュータウンとの調和を図りながら本町で暮らすすべての人々が、互いに思いやりのこのころを持って、温もりのある豊かな生活を実現していくまちを創造しています。

「暮らす人と訪れる人」の調和

本町には、大野山を源流とする清流猪名川、町域の約 8 割を占める猪名川溪谷県立自然公園や近畿自然歩道などで代表される豊かな自然や伝統文化そして、都市近郊の新鮮な野菜をはじめとする農産物が豊富にあり、これらを求めて町外から訪れる人は少なくありません。住む人同志の温かなふれあい、また、訪れる人との交流を通してともにこの町を愛し、ともに手を携えて、交流し、連携するまちを創造しています。

また、総合計画では、歴史文化を活かしたまちづくりとして、地域の存する歴史的産物を保存するとともに、これらを観光資源として活用して町の歴史を大切にしながらも 21 世紀を見据えた地域づくりを進めています。

(2) 猪名川町都市計画マスタープラン

都市施設の整備方針を定める「都市計画マスタープラン」は、目標年次を平成 33 年とし、目標とすべき都市像を「豊かな自然と共生する田園都市 いながわ」としている。

この都市像を具現化していくため、都市づくりの基本方針として以下の 9 点を設定している。

交通施設整備方針

- 広域的な道路網のネットワーク化
 - ・東西方向の国土幹線である第二名神高速道路並びに阪神北地域の主要南北幹線道路である国道 173 号と本町内主要幹線である主要地方道川西篠山線、猪名川町道上野 5 号線などとのネットワーク化を図ります。

公園緑地整備方針

下水道・河川整備方針

その他公共施設整備方針

自然環境保全及び都市環境形成方針

- 水と緑のネットワークによる潤いのある都市環境の形成
 - ・幹線道路を中心とした歩道整備や緑化、自然歩道、ハイキングコース、サイクリングロード、散策路などの整備・充実によって、市街地内外の歴史的・文化的施設や公共施設、景勝地、河川、ため池などを有機的に結び、緑のネットワーク化を推進します。

景観形成方針

- 自然保養景観エリア
 - ・昔ながらのランドマークとして親しまれている身近な里山景観や大野山などの山頂・峰、歴史的遺産がある銀山地区などについて、積極的な保全を図ります。
- 軸景観の形成

- ・歴史・文化的資源や公共施設相互をネットワーク化するために、統一的なデザインが施された公共サインを設置します。
- ・近畿自然歩道や既存のハイキングコースなどの整備を進めるとともに、これらの自然歩道について、良好な眺望が得られる地点において、東屋などの休養施設やサイン施設の整備を図ります。

市街地整備方針
住宅整備方針
都市防災方針

* 都市計画マスタープランにおいて、本計画に関連のある部分のみ詳細に明示しました。

2-2 歴史街道計画まちづくりビジョン

(1) まちづくりの課題

- ・ 本町は、昭和 40 年代後半からの大規模住宅地開発により、人口の急増期がありましたが、社会経済情勢の低迷から近年ではむしろ減少傾向にあります。
- ・ 人口急増期の転入者が、地域によっては高齢人口を押し上げています。
- ・ 大都市近郊に位置しながらも、この自然環境の豊富で歴史的遺産が数多く残る本町の認知度が低いとされています。
- ・ 観光面での取り組みは一定の施策を講じていますが、町ぐるみでの取り組みは少ないのが現状です。



こうした状況を踏まえ、本整備プランを策定する上での課題は以下のとおりです。

既存の歴史文化資産と今後出土する歴史資産とをどのように連携を図っていくか。

猪名川町では歴史文化に関連した既往の計画や事業に取り組んでおり、これらをどう関連させていくか。また、これらを補完したものや新たな視点からの取り組みなどをどう盛り込むか。

豊かな歴史文化資源の保全と有効活用をどう両立させ、観光面で活かしていくか。また、ソフト面の取り組みにいかに絡めていくか。

(2) まちづくりビジョン

基本的なねらい

本町の歴史文化を活かしたまちづくりでは、住民自身がわがまちの歴史・文化の魅力を再認識し、愛しみ、まちの魅力を育み、保存・継承していくようになること、ま

た来訪者とのふれあいで住民自身が喜びを感じられるようになることが重要です。

すなわち、住民にとって魅力ある歴史文化のまちとなることが大切であると考えます。その結果として、交流が活発化しまちの活性化が図られることを基本的なねらいとします。

まちづくりのテーマ

本町は、高僧行基によって開かれ、各地域に寺社が建立されるなど神仏のゆかりは深いとされています。また、摂津国川辺郡に属していたことから源氏発祥の地である多田盆地に近く、豊臣政権の台所を支えた多田銀銅山の所在地として知られているところで、歴史ロマンに彩られたまちです。奈良大仏鑄造にはじまるという伝承もあるこの鉱山は、昭和48年に休山するまで、埋蔵金伝承など様々な伝説を歴史の中にとどめてきており、現在でもなお埋蔵金を探し求める人もいます。

江戸時代後期には、全国を行脚しながら逗留した地で仏像を奉納した木喰明満上人が、90歳の時に猪名川を訪問し約3ヵ月の滞在期間中に数多くの木喰仏を造像され、現在では26体が残されており、平成11年4月に兵庫県指定文化財に指定されています。

また、町土の8割が県立自然公園であり、山林が大半を占めており、国内でも有数の里山が残る地域と評する識者もいます。そして、町域の中心を北から南に流れる猪名川は、下流になって兵庫県と大阪府とを隔て尼崎市で神崎川に合流し、やがて大阪湾に流れ出ています。

こうした、大阪神戸などの大都市近郊に位置していたことから、昭和40年代から大規模住宅地開発により飛躍的に人口も伸びましたが、猪名川に沿って並び立つ山々は四季折々の美しい風景が見れることから、憩いとやすらぎを感じる地で農業体験や溪流釣り、ゴルフ、ハイキングなど様々な形態で本町を訪れる方も益々増えています。

こうした、歴史性があり、住む人にとってもやすらぎを感じ、自然環境が豊富な本町のまちづくりテーマを、以下のようにします。

多田銀山（やま）と清流猪名川（かわ）のまち

（コラム）

豊臣政権を潤したといわれる鉱山跡で財宝が隠されているという太閤伝説のある銀山で、豊富な自然がすぐ都市部の近くにあり、町の中央を流れる猪名川を大切に守っていこうとする「清流猪名川を取り戻そう町民運動」を推進していることなどからテーマを設定しました。

3．歴史街道計画整備プラン

3-1 基本構想

(1)基本的な考え方

歴史街道計画の整備プランを策定するにあたっての基本的な考え方として、以下の考え方をもつこととします。

歴史文化を活かした「住み続けたい・何度も訪れてみたい」地域づくりを進める

来訪者が快適に本町の歴史・文化を観光できるようにするだけでなく、地域の生活環境の整備・向上や、住民が本町に対する誇りやふるさと意識を高め、心の豊かさやゆとりを感じられるような地域づくりに取り組みます。

観光客流入による交流人口の増大を地域の振興につなげる

歴史文化を活かすことによって交流人口が期待され、これを地域の振興に結び付けていく必要があります。

このため、特産品などを活かした土産物の開発や観光農業の振興を進めるとともに、観光・情報発信拠点である「道の駅いながわ」の拡張計画に合わせてその充実を図ります。

また、観光地の自然景観を大切にしながらも憩い楽しんでいただけるような整備を進めます。

豊富な自然環境の保全と清流猪名川を取り戻す

京阪神の都市部に近接していながら国内でも有数の里山が残り、四季折々の自然の姿が見れる豊富な自然環境を次代に引継ぎます。

また、町域を南北に流れ、町名ともなっている一級河川猪名川が、流域の人々の生活を潤し、一昔前のような川に親しむことのできる親水性のある川となるよう、水質を保全して清流を取り戻す取り組みを進めます。

(2)基本方針

基本方針として、以下の点をあげます。

地域の資源を活かした観光ゾーンの形成

- ・ 銀山地区では、その包蔵する歴史資料を明らかにするための文化財調査の実施や資料等を保存し自由に閲覧できるような資料館の整備、案内看板やトイレ、パンフレット等を設置できる案内スポットを設置します。また、誰でも観光していただけるような遊歩道の再整備や駐車場・休憩所を整備します。さらに、代官所跡地と川岸を一体化した歴史親水公園を整備します。
- ・ 彫刻の道とその周辺地区では、案内・観光看板の設置やレンタサイクルセンターを設置し、環境に配慮した自由に移動できる設備を整えます。また、地域や町内全域において、心地よく周遊できるようジョギングコース・サイクリングコースを整備します。さらに、石彫をリフレッシュするためのクリーン作戦を実施します。
- ・ 溪流猪名川に寄り添う地区では、大島であい公園や「道の駅いながわ」周辺に整備される親水公園と県に整備要望をしているふるさと館周辺の親水公園らを「川

の駅」^①として位置づけ、そのネットワーク化を図ります。また、地域に所蔵されている歴史文化物や景勝地・文化芸能施設の保全・整備を進めるとともに自由に観覧でき所在がわかるよう看板を設置または統一化します。

- ・ 柏原棚田地区と阿古谷地区では、農村の原風景とされる自然景観の保全や景観保全のための担い手、後継者確保のためのシステムを構築します。また、農村歌舞伎など地域の活力となる文化芸能の保全・継承を支援します。

観光ゾーンへのアクセスの整備・充実

- ・ 交流を促進する道路交通網の体系的な整備を促進させるため、第二名神高速道や都市計画道路石道上野線などの早期整備を促進します。また、県道の整備（川西篠山線北野バイパス、島の歩道整備）が速やかに行われるよう働きかけます。
- ・ 路線バスの維持・改善を阪急バス㈱に要望するとともにふれあいバスの充実を図るなど公共交通の強化・充実を推進します。

観光案内情報の整備・充実

- ・ 道の駅歴史街道 i センターの設置や観光案内表示の一体化と整備、そして誘導案内表示の設置や散策（ハイキング）コースの P R を行い、情報伝達機能を強化します。

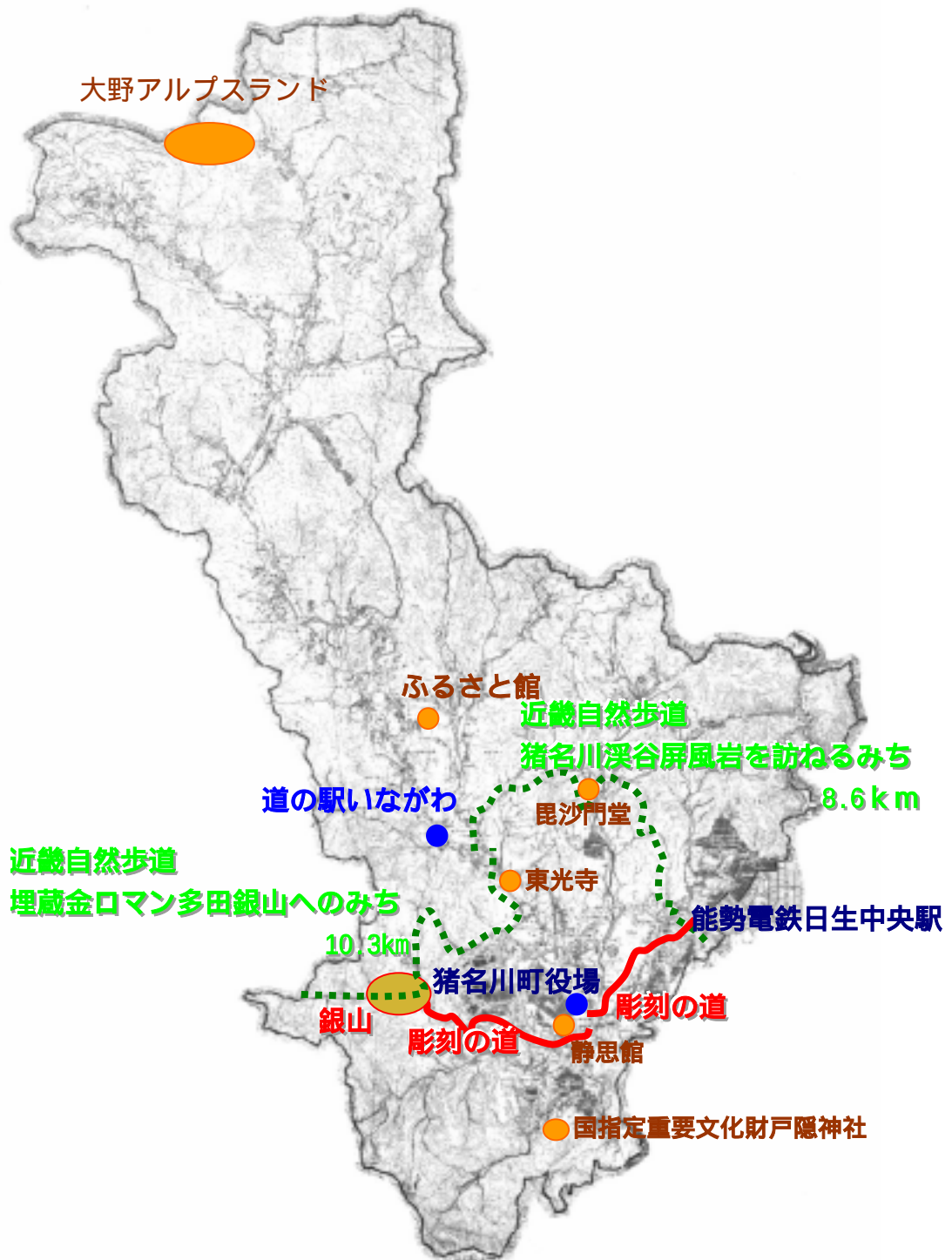
観光産業関連の振興

- ・ そばの館や民間事業者による農林産物加工の観光 P R の推進や農業体験ができる観光農林業の推進、事業者と協働した特産品の開発等を推進します。

(3)地区設定・重点整備地区設定

全町を一体的な観点で歴史街道計画を進めようとしていることから町全域を対象地区として捉え、本町の交通基点として位置づけている日生中央駅から近畿自然歩道と彫刻の道を概ねの動線の交わる地点であり、地域内では最も歴史遺産が集積し著名な地域である「銀山地区」をまちの観光スポットとして本町のみならず、日本の歴史的遺産として後世へ引き継いでいくことをねらいとして、その重点地区としています。

【地域の主な歴史的・文化的な施設】



(4)施設整備計画(全体、重点整備地区等)

地域の資源を活かした観光ゾーンの形成

- 景観保全地区の指定による歴史的まちなみ・自然環境の保全・創出
 - ・広根～銀山地区の旧街道のまちなみ景観ゾーン
 - ・彫刻の道まちなみ景観ゾーン
 - ・溪流猪名川に連なる時代年表ゾーン
 - ・柏原棚田・阿古谷地区景観ゾーン
- 沿道景観に配慮した生活道路の整備
 - ・路面の美装化・透水性舗装化、電線類の地中化、並木の整備など
- 歴史遺産や史跡・景勝地指定による観光地ネットワークの構築

重点地区の施策

多田銀銅山代官所跡遺跡現地見学会

■銀山地区とその周辺の整備

歴史を学ぶ場の整備

- ・歴史遺産を名実ともに明らかにするための文化財調査の実施
- ・銀山資料館の整備
- ・高札場跡（銀山橋の袂）に高札レプリカの設置
- ・間歩の整備（青木間歩に音声説明機の設置、瓢箪間歩・台所間歩・船間歩の整備）
- ・歴史施設の整備（久徳寺跡の整備・金山彦神社の水抜き口の整備・日本鉱業エレベーター跡の整備）



銅山代官所の正門を移築した民家



自由に観覧できる間歩(青木間歩)

観光地としての整備

- ・近畿自然歩道や旧道（遊歩道）の再整備と駐車場・休憩所の整備
- ・代官所跡地と川岸を一体化した歴史親水公園の整備により砂金（銀）とりスペースの設置
- ・精錬所跡地に銀山歴史公園の整備
- ・案内（標識）看板・トイレの設置
- ・パンフ掲出など案内スポットの整備



案内スポットのイメージ

■彫刻の道とその周辺の整備

- ・案内看板の設置
- ・サイクリングロード・ジョギングコースの整備
- ・レンタサイクルセンターの設置
- ・石彫の保全と活用



自転車駐車場(日生中央駅前)

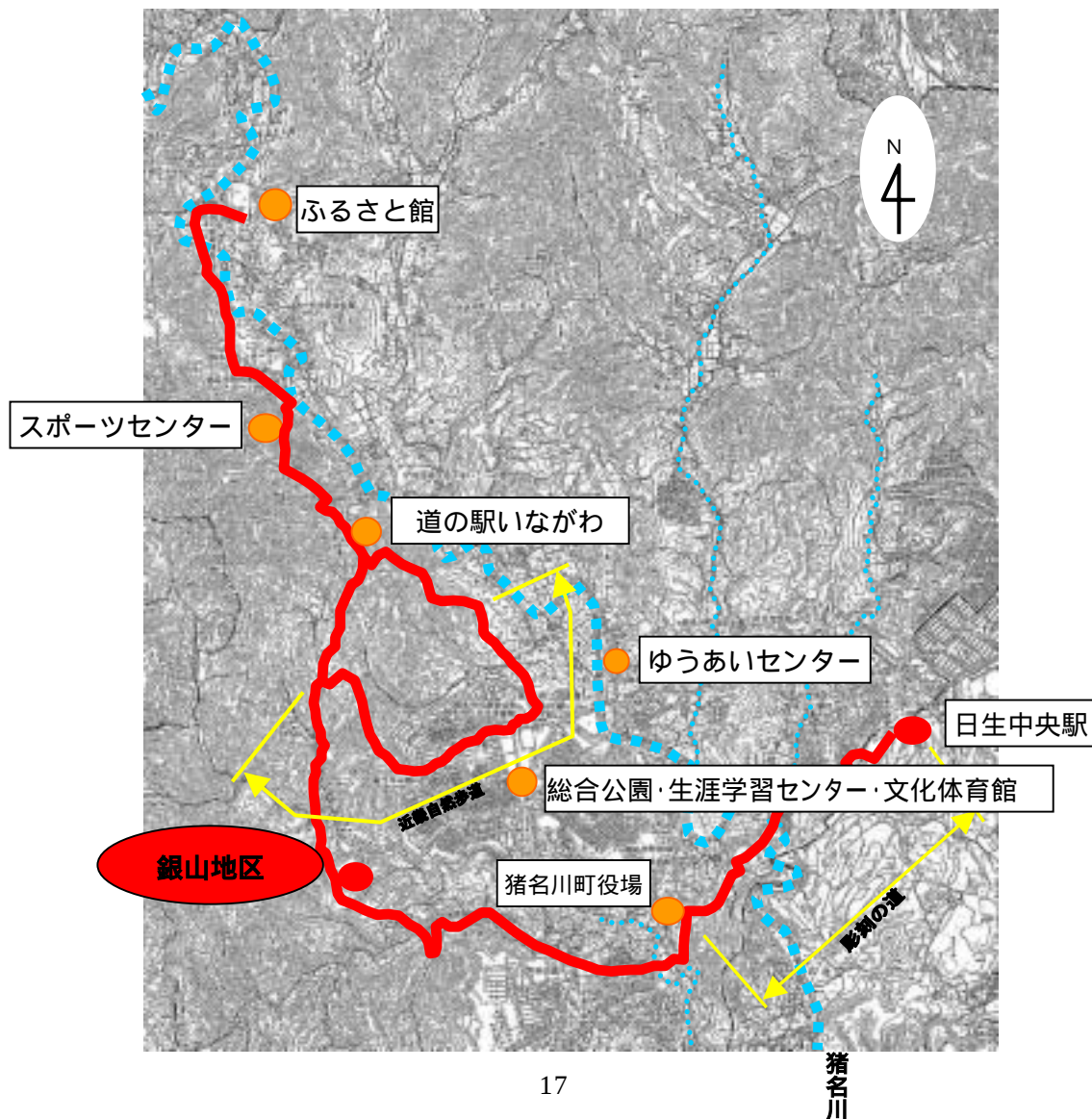


彫刻の道の石彫

■溪流猪名川に寄り添う地区とその周辺の整備

- ・「道の駅いながわ」と一体的な利用ができるよう親水公園の整備推進と「川の駅」としてのネットワーク化
- ・案内看板の設置
- ・遊歩道・サイクリングコースの整備（彫刻の道～ふるさと館間）
- ・歴史施設としての神社仏閣のネットワーク化
- ・景観地・文化芸能施設の整備

散策路・サイクリングコースの整備計画イメージ



■ 柏原棚田地区と阿古谷地区とその周辺の整備

- ・自然景観の保全
- ・景観保全のための担い手、後継者確保のためのシステム構築
- ・案内看板の設置
- ・文化芸能の保全・継承（農村歌舞伎の復活）



柏原地区の棚田の風景



杉生・西畑地区の練りこみ
(農村歌舞伎)



ニュータウンからの風景

観光ゾーンへのアクセスの整備・充実

- 交流を促進する道路交通網の体系的整備
 - ・都市計画道路石道上野線などの早期整備
 - ・県道の整備（川西篠山線北野バイパス、島の歩道整備）
 - ・町道の整備（上野5号線など）
- 公共交通の強化・充実
 - ・路線バスの維持・改善
 - ・ふれあいバスの充実



ふれあいバス



ハイキングマップ

観光案内情報の整備・充実

- ・道の駅歴史街道 i センターの設置
- ・観光案内表示の一体化と整備
- ・誘導案内表示の設置や散策（ハイキング）コースのPR

高齢者の外出支援事業(寿カードやラガールカード)などにも



観光産業関連の振興

- ・そばの館や民間事業者による農林産物加工の観光PRの推進
- ・農業体験ができる観光農林業の推進
- ・特産品の開発等

(5) 民有空間の整備等に関する施策

- ・景観保全地区における景観形成助成事業
- ・活力あるコミュニティづくり事業
- ・空き家等の活用事業

(6)地域の住民活動等の活動

- ・環境美化
彫刻の道での彫刻アドプト制度の推進
- ・観光案内ガイドの設置
- ・地域の文化財、文化芸能団体・グループの活動支援と観光ネットワーク化の推進

(7)ソフト事業への支援施策

- ・歴史、観光ガイドブックの編纂
- ・観光協会の発展的活動支援
- ・ボランティアガイドの育成
- ・観光情報の定期的な提供
- ・映画、テレビ等の放映によるPRの促進
- ・のじぎく兵庫国体でのPR
- ・イベントの開催支援（ハイキング・ハイキングマラソン・スタンプラリー・今絵図描写大会等）

(8)その他歴史街道計画整備に必要な施策

- ・国際環境指針ISO14001に準拠した環境の保全と子どもから高齢者までの異世代が健やかに過ごすことができる福祉のまちづくり

3-2 計画の具体化に向けて

来訪者を温かく迎える人情味のある地域づくりを進めるためには、地域住民や事業者の歴史文化に対する深い知識、来訪者に対する気配りが何よりも必要です。

このため、住民や事業者に対する意識の啓発のほか、観光ボランティア活動の導入や観光関連産業の取り組みなどを支援し、行政・住民・事業者が協働し一体的な地域づくりを進めます。